やまびこ

題字　蔦　文也

第74号
徳島県立池田高等学校
桜陵会近畿支部
奈良県北葛城郡王寺町元町
2－11－3（華本方）
TEL・FAX（0745）32-4792

桜陵会近畿支部　検索

https://
oryokai-kinki.jimdo.com/

総会は中止いたします
～コロナ禍二年続けて～

新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言が発令されるなど、社会生活の制約状態が続き、ワクチン接種により多少改善されたとしても、多くの参加者は期待できませんので総会開催は中止します。

昨年に続く連続中止となりますが、ご理解の程お願いします。

会計報告を含め、役員改選（2年毎）にあたる役員選任など、総会で承認が必要な事項があります。アンケート結果による会則改訂も予定していたため「書面総会」を検討しましたが、役員は留任（退任者は除く）とし、会計報告等は昨年同様、役員会で検討、承認とさせていただきます。

いずれも会則規定にはありませんが、緊急特例として次回開催の総会で一括して報告、ご承認いただくことといたします。

コロナ禍後、どのような社会生活になるのかは予測できませんが、「やまびこ」発行とホームページの記事更新で各種情報はお知らせしてまいりますので変わらぬご支援をお願いします。

（事務局）

池高だより

桜陵会事務局　岡久 展子

近畿支部の皆様、日頃は本校教育にご協力いただき心からお礼申し上げます。池田高校は4月8日に新入生162名を迎えました。感染対策のために授業や行事の方法を工夫しながらも、無事生徒とともに新年度をスタートできました。

今年度は、徳島県が進める「GIGAスクール構想」のもとに、池田高校の教室にも電子黒板が設置され、生徒一人ずつにタブレットが配置されます。ICT機器をいかに活用できるか、教員も準備に奮闘中です。日々進化する社会にたくましく対応できる力を生徒たちに備えさせるべく、新たな学び方にチャレンジしております。

来年度は、池田高校創立百周年を迎えます。先輩方の百年の歴史や功績を学びつつ、現在や未来の池田高校の可能性を描けるよう、節目の年を迎える準備も進めて参ります。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

（4月30日記）

ホームページが新しくなりました

令和3年5月から母校のホームページがリニューアルされました。

学校の教育方針及び各クラブの部活動状況（対外試合等）などがアップされておりますので、「お気に入り」サイトに登録設定し折々の「池田高校」をご覧いただき応援してください。

【文武両道、さわやかな校風！地域資源を活用した協働的な探究活動！素直で明るくそしてストイックな池高生の活動をご覧ください！】ＮＨＫより抜粋

https://
ikeda-hs.tokushima-ec.ed.jp

令和三年度 行事予定

《近畿支部関係》
7月25日　第44回定時総会（中止）
9月22日　第51回ゴルフコンペ
11月3日　家族ハイキング
1月16日　新年互礼会

《「やまびこ」発行》
7月1日　第74号発行

《本部・支部・県人会関係》
9月12日　徳島県人会近畿連合会総会と県人の集い（中止）
11月13日　徳島支部総会（中止）
1月15日　県人会近畿連合会新年互礼会

＊新型コロナウイルス感染症の関係で変更（中止）されることがあります。事前にホームページでご確認してください。

令和元年度 決算報告書の概要

令和元年度決算は、コロナ禍で定期総会が中止になったため、総会議決に代わり、特例として令和2年6月20日に開催した役員会で報告・承認されました。

収入の部「年会費」は減少傾向が続いており、前年度比▲75600円と厳しい状況です。「寄付金」は篤志家のご芳志により増額となりました。

支出の部は「やまびこ」を前年度に続き年一回発行としたものの、創立40周年の記念行事（歌謡ショーなどのイベント）を実施のため「総会費」は大幅増額となりました。

記念総会趣旨にご賛同いただいた方々から多額の「寄付金」があったものの決算額は前年度と略同額の▲509719円となりました。

次年度以降も「年会費」が減少する見通しであり、抜本的な対策が求められます。

第二吉野川橋梁

一陽会会員　大東明宏（昭52卒、神戸市在住）

鉄道カメラマンの坪内氏がコーディネイトした部屋が「サンリバー大歩危」にある。鉄道ファンに人気で予約がなかなか取れず、ひとつ上の階の部屋に宿泊した。目の前の鉄橋を土讃線の列車が渡る絶好の撮影ポイントで、絵を描くことよりカメラを構えることに夢中になってしまった。

令和元年度決算報告書

桜陵会近畿支部

（自）平成31年4月1日　（至）令和2年3月31日

収入の部			支出の部		
	科目	金額（円）		科目	金額（円）
1	年会費	537,600	1	事務通信費	42,439
2	総会会費	355,000	2	総会関係費	583,456
3	新年会会費	169,000	3	新年会関係費	166,150
4	広告料	54,000	4	「やまびこ」関係費	175,532
5	寄付金	369,000	5	「やまびこ」発送費	136,058
6	受取利息	3	6	諸会議費	77,242
7	雑収入	400	7	徳島県人会年会費	15,000
8	前期繰越金	▲506,905	8	口座振込手数料	31,016
			9	新年会案内等作成費	111,100
			10	新年会案内等送付費	139,824
			11	慶弔金	10,000
			12	次期繰越金	▲509,719
	合計	978,098		合計	978,098

繰越金明細　① 資産　現金　156,878円
普通預金／郵便局　487,803円
計　644,681円
② 負債　年会費預り金　1,154,400円
差引繰越金　①－②　▲509,719円

やまびこ抄 ②
コロナ禍の「桜陵会近畿支部」

歴史に残るであろう未曽有の惨事「コロナ禍」。社会の在り方が激変し、これまでの常識や経験値は全く通用しなくなってしまいました。桜陵会近畿支部も大きな課題に直面していることは確かです。

「活動も出来なく財政的に苦しいのであれば、この際解散したら。残預金は母校に寄付して。」「年会費制はやめて総会開催だけに」というご意見が寄せられています。ここ数年来、会員減（高齢化）、年会費減により支部財政が悪化している状況をみると、こうした意見は止むを得ないことと思います。

しかし、私達には生来、家族愛、ふるさと愛、母校愛、職場愛、近隣愛、宗教愛など、意識するしないにかかわらず心のよりどころとなる『愛』というものを持っています。コミュニケーション、集うことによって（少人数であるほど）濃密な関係性が生じることも知っています。

池高卒業生の連帯感（母校愛）の組織体、私達の近畿支部は野球部の甲子園活躍で一気に求心力が働き、野球部中心の母校愛で組織を維持してきたことは確かですが、休刊なく定期発行してきた機関紙「やまびこ」の役割は見落とせません。他校には見られない特長と言えます。

総会の会場に掲示される支部旗

コロナ禍以前のことですが、近畿における県立高校の総会開催状況は、徳商（渭水会）は県人の集いに便乗開催、富岡西（牛岐会）は隔年開催など工夫されており、川島（至誠会）、脇町（芳越会）、阿波（松契会）、城南（FS会）などは魅力的な総会を開催しています。しかし機関紙は発行されていないようで「やまびこ」を紹介すると「よく続いていますね」、「記事内容も豊富やね」と賞賛の言葉をいただいたことがあります。

私達の近畿支部は創立40周年という長い歴史の中で時代の変化に対応し、機関紙「やまびこ」の定期発行という素晴らしい実績を持ち、少なからず会員間のコミュニケーションを促進する一翼を担ってきました。

コロナ禍だからこそ「やまびこ」を中心に連帯感（母校愛）をよりしっかりと醸成し育成することが大切です。ここは有志各位のご支援を得て愚直なこだわりを持って取り組む「ふんばり」が重要だと考えます。

コロナ禍及びコロナ後も「楽しい同窓会、あって良かった近畿支部」と多くの同窓生から常に思ってもらえる強い近畿支部の組織でありたいものです。

人物歳時記
計画、そして実行　大西眞一さん

桜が散り始めた快晴のよき日、大阪から新幹線で約一時間、加古川の大西さん快速で約一を訪ねた。

古里から運んだという大きな石が二つ置かれた美しい庭のあるご自宅の斜め前にあるカラオケ喫茶「あざみ」でお話を伺う。

★11人兄姉の末っ子の大西さんは、池高卒業後、兄の勧めてくれた神戸製鋼に入社し、加古川工場に勤めた。鹿児島出身の女性と結婚し、十年目にして一女、一男に恵まれた。

★定年後を見据えて、かねてから購入していた土地に、若いころから趣味にしてきた社交ダンスのできる広いフロアの「あざみ」をオープンしたのは55歳の時だった。時、恰も分社化された神戸に本社のある「㈱コベルコ科研」へ品質管理事務局長として勤務した。従業員は千人くらいだったが高学歴社員の固まりの中にあって、しかも片道一時間半の通勤はストレスになり心臓を患った。60歳の定年の翌年には、胃も患い、コロナ禍の昨年は再発して、「健康が一番大切だ」と何度も口にされた。とは言ってもさすがに大西さん、終の棲家を自宅から3分の長女宅の横に購入してある★「寄らば大樹の陰」とはいうが計画、そして実行してきた大西さんの努力と忍耐に敬意を表したい。「生涯、決して敵は作らないで生きてきた」という言葉も印象的だった。昭和36年卒、箸蔵出身。

（文・眞野春美）

桜陵会支部だより②

「中部桜陵会」のご紹介

前列中央・土井会長、右端・尾藤事務局長

中部支部は「中部桜陵会」として、約40年前に加藤武弘氏のご尽力によって設立されました。会員は愛知、岐阜、三重の東海三県にまたがっており、150人程でした。

野球部が全国制覇した時期には監督をお迎えして盛大に総会・懇親会が開催され、私も3人の幼児を連れて参加しました。子連れの方も多くて、立食パーティーの人混みの中、子どもたちは大喜びで、今にして思えば隔世の感があります。

会長は初代の故加藤武弘氏（中1）から、故西谷重信氏（中22）、土井章氏（高26）と引継ぎ、現在に至っています。事務局は、故竹原トヨ子氏（高5）から、私、尾藤ヨシ子（高15）が担当し、顧問として藤田幸孝氏（高13）が控えています。

活動は年1回の総会を兼ねた懇親会と、6月に開催される中部徳島県人会の折に池高出身者が集まり旧交を温めるといった細々としたものです。

会員の高齢化等で参加者は10人そこそことなっておりますが、上は80代から下は40代まで、年齢は違っても母校「池高」への思いは同じ。それぞれが青春の日々を過ごした池田の地を離れ、この中部の地に根を下ろすまでの時の流れをかみしめ、話題は尽きません。コロナ禍が収束して、また皆で集える日を心待ちにしております。

（文責：事務局、尾藤ヨシ子）

趣味&ライフワーク&ボランティア

川柳

頭師　隆（昭33卒）

パノラマの
過去よみがえる
クラス会

もう一度
校歌聞きたい
甲子園

川柳を始めて40年以上になります。なぜ始めたのだろうか。時流に流されることなく、何時も冷めた目で世間を見ていた私。あの江戸時代幕府さえも笑いの種に、庶民の憂さ晴らしとなった川柳、俳句と違い約束ごともなく今日からでも入門でき、作品も作れる、そんなことがきっかけとなりました。

昨今、サラリーマン川柳が新聞などで報道されるようになり、また企業が宣伝を兼ね、懸賞金だす広告が出始めてから、ようやく短詩系文芸として認められたのではないでしょうか。

元番傘本社同人、瓦版の会同人として、これまで読売新聞、朝日新聞などに投句しています。

川柳の愛好者にはおおむね年配者が多いです。そのせいか句会は昼間が多く、勤め人は投句して後で結果を聞きます。句会では兼題が出てそれに合わせて作句します。後で選者がそれにふさわしい句を選んで披講します。句会が終わった後の一杯が楽しみです。私の最近の句です。

儲け話
聞き耳持たぬ
足の胼胝

編集部注：胼胝はヘンテイ。たこ・まめのこと

（東大阪市在住）

桜陵会ゴルフコンペ 第50回記念大会

優勝は徳田公伸さん（昭35卒）

5月26日（水）に法隆寺カントリー倶楽部（奈良県斑鳩町）で10名が参加して行われました。平年より早い梅雨入りでしたがよいコンディションに恵まれ、第50回の記念大会にふさわしく熱戦が繰り広げられました。優勝は徳田公伸さん（昭35卒）、準優勝は森上修さん（昭30卒）、第3位は華木敦則さん（昭42卒）、またBB賞は佐竹勝久さん（昭42卒）でした。

昭和57年9月23日（祝日）に宇陀カントリークラブ（奈良県）で第1回が開催され、以降毎年9月23日（祝日）を定例開催日として実施してきました。今回は第1回から数えて40年になりますが、参加者の希望で平成22年から年2回（春・秋）開催としたため今回50回目となりました。

優勝した徳田さんは「優勝できるとは思わなかった。立派なトロフィーを頂いて感激です」とコメントがありました。

また、森上様より自社商品（ポン酢）の提供があり特別賞として渡しました。森上様有難うございました。

次回は9月22日（水）グランドオークプレーヤーズコース（兵庫県）を予定しています。

第49回大会は秋田さんが連続優勝！

コロナ禍でしたが、令和2年9月23日（水）「よみうりゴルフウェストコース」（西宮市）で10名が参加して行われました。

優勝は前回に続き秋田良八さん（昭47卒）、準優勝は宮内昭次さん（昭42卒）、第3位は國金達さん（昭42卒）でした。詳しくはホームページをご覧ください。

（事務局）

家族ハイキング

晩秋の比叡山を楽しむ

平地　信子（昭44卒）

前夜の大雨がうそのように秋晴れの11月3日（文化の日）「三密」を避け「霊峰比叡山に登る」をテーマに、須丸忠由リーダー（昭31卒、京都在住）を先頭に叡山電車「修学院駅」を友達、同級生、ご夫婦等15人で出発。曼殊院を過ぎると、いよいよ「雲母坂」（標高200m）入り口へ。

周りの景色を楽しみながら余裕で賑やかに山道を登ること30分。九十九折りが続く急登りに見上げても見上げても急坂、ため息ばかり。立ち止まると谷から吹き上る風で寒いので、もくもくと登り「水飲対陣之跡碑」（500m）で昼食一息つく。少し予定より遅れたので、ロープウェイで往復することにし乗り場へ。笑顔が戻り景色を楽しみ展望台へ（838m）。各自でガーデンミュージアム比叡辺りを散策。有志のみで大比叡の三角点（848.3m）へ伝付き（手を付くこと）に！

季節柄人出が多く、ロープウェイ、ケーブルカーもピストン輸送で気持ちよく下山。午後3時、八瀬駅へ。須丸リーダーの元気・若さに驚くとともに次回の再会を約束して解散。皆様お疲れ様でした。

故郷を離れてウン十年、お住まいの第二の故郷の自慢の場所（山や公園等）をご案内していただけませんか？

皆様と誘り懐かしくお会い出来ればと楽しみにお持ちしております。

（大東市在住）

ふるさとあれこれ㉗

賃取り橋の軌跡

～大川橋83年のあゆみ～公開

中村竜司（平3卒）

【賃取り橋の軌跡】で検索できます。

山城町と池田町を結ぶ橋、大川橋が解体撤去されました。

このたび大川橋が紡いだ歴史をまとめた動画を三好市が公開しました。

83年間、地域の物流や交流を支えてきた偉大な橋の記憶が、四季折々の美しい映像と地域の人たちの素朴で優しい語り口で綴られています。

映像の中に出てくるナレーション、言葉も心に響くものがあり、見るものの心を揺さぶります。

冒頭の「こちら側と向こう側をつなぐ「橋」それは、人やものを運ぶための「道」でもあり、人と人が出会うための「場」でもあります。」の言葉に、今は当然のように行き来している橋（道）も、当時はそうではなく、それが出来たことはとても重要な出来事であり、今を形作る大きな歴史の一部であったということを今更ながらに感じることが出来ます。

大川橋は無くなってしまいましたが、この橋が紡いだ様々な物語は人々の心に残され、今を生きる私達の礎であったことは間違いありません。

この動画の最後の言葉をお借りし「拝啓、大川橋様、83年間本当にありがとうございました。」

この動画は三好市公式YouTubeチャンネルで見ることが出来ます。

（三好市在住）

次回家族ハイキングは「山の辺の道」

ハイカーにとって一度は歩いてみたいと言われる奈良の古道「山の辺の道」。高齢者にも優しいコース。

- ●日　時/ 11月3日（文化の日）午前10時
  JR天理駅改札口集合
- ●コース/ JR天理駅～JR柳本駅　約8km。
- ●その他/ 事前申込不要。雨天中止。
- ●連絡先/ 川原　090-9164-0025

会費納入ありがとうございました。

複数年会費納入者を掲載させていただいています。今後ともご協力、ご支援をお願いします。

- ●年会費　1200円
- ●5年会費　6000円
- ●10年会費　12000円

【令和2年4月～令和3年3月末までの会費納入者】

◎10年会費納入者（敬称略）
井上　恵（28）　大西哲生（47）
鈴木吉康（49）

◎5年会費納入者（敬称略）
高橋央子（27）　太田キミ子（30）
竹口重貞（31）　山口三郎（31）
宮脇孝子（33）　森　隆子（33）
十川桂子（34）　林　貴康（35）
田口潤子（37）　石田一枝（38）
小原　進（38）　興　光明（38）
極原由紀子（39）　眞鍋憲行（40）
吉塚信重（40）　尾藤福一（41）
遠見豊子（43）　桑地泰信（44）
岸　和子（45）　黒島悦子（46）
谷川道代（48）　松山和子（48）
岩井ひろみ（53）　村上安紀（56）
谷川克子（60）

◎2年会費納入者（敬称略）
北尾孝子（37）　荒木久美（60）

◎1年会費納入者は76名

会費未納者は、本年度分より納入をお願いします。

年会費のお問い合わせは、会計・吉田まで（☎090-3652-6102）

寄付（順不同）

白川　和子 様（昭33卒）5千円
遠見　豊子 様（昭43卒）1万円
鈴木　宣康 様（昭49卒）2千円

ありがとうございました。

訃報

藤本　利仲さん（昭24卒）
山本　甫さん（昭25卒）
藤井　平八さん（昭26卒）
多田　泰一さん（昭27卒）
平尾　壽夫さん（昭31卒）
中村　隆さん（昭38卒）
大西　孝司さん（昭44卒）

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

やまびこ短信

◆Line同窓会の勧め

後期高齢者世代の多くはガラケーで十分と、スマホは少数派。中学同窓10人ばかりに呼び掛けLine同窓会グループを結成したところ大好評なので高校同窓メンバーに呼び掛けグループを立ち上げた由。グループ名は「37池高商業未申会」。メンバーは徳島4人、大阪2人、東京3人。うち女性が3人。コロナ禍の新しい「同窓会」スタイルを見つけたそうです。

編集後記

◆前年に続き定期総会は中止。でも「やまびこ」はお届けできました。

◆ツアー、同窓会、気の置けない仲間と会食歓談など、生活に彩りを添えてくれたことを今、私たちは我慢せざるを得ない日々を送っていますが、きっと安心安全なニューライフ時代が来るはずです。

◆来年度は創立100周年を迎える母校。コロナ禍を超えた祝賀事業に参画しお祝いしましょう。